

今読むべき世界の名著①

『史記』高祖本紀を読む
～もう一人の英雄、劉邦～
【全五回】

『史記』は、前漢の司馬遷の手になる中国の歴史書です。「紀伝体」という記述方法が後代の歴史書に受け継がれていったことから、中国の公的な歴史書である「正史」の祖ともされます。内容は、年代記や制度史、年表、そして個人の伝記である列伝からなります。

とりわけ列伝は、司馬遷が歴史を執筆した際に個人に注目したこと示す『史記』の代表的な部分といって良いでしょう。

また、後世になると『史記』はその文学的香気から、散文の模範ともされました。日本でも歴史を通じて広く親しまれています。このような広い愛読者層を持つ『史記』にはたくさんの人物が登場しますが、特に人気があるのは始皇帝亡き後の混乱を戦い抜いた項羽



漢高祖像
高祖劉邦

ではないでしょうか。

ところで、項羽と同じ時代に生きたもう一人の英雄がいます。それが漢の高祖劉邦です。項羽の圧倒的な強さの前に膝を屈することしばしばでしたが、やがて仲間と力をあわせ、ついには天下を統一して漢王朝を打ち立てます。

項羽と劉邦を比べてみると、項羽に比して劉邦には多くの家臣が付き従い、彼を支えていたように感じます。多くの人に支えられながら劉邦は皇帝となるわけですが、換言すれば、劉邦にはそれだけ人間的な魅力があったということでしょう。

今回は、この劉邦に焦点をあてつつ彼の家臣となった人物も拾い上げながら『史記』を読みすすめていきます。

第一回、『史記』とはどのような書物か？

また、項羽と劉邦および周辺の人物について

第二回、大丈夫まさに此の如くなるべし

～生まれてから拳兵するまで

第三回、法三章のみ

～函谷関を抜き鴻門の会を経て漢王になるまで

第四回、此れ吾の天下を取りし所以なり

～項羽を打ち破り皇帝となるまで

第五回、安んじか猛士を得て故郷を守らしめん

～諸王の反乱鎮圧と後継者



國學院大學
教育開発推進機構
准教授
鈴木 崇義 氏

日時：第1回：2022年1月 8日（土） 第2回：1月22日（土） 第3回：1月29日（土）
第4回：2月 5日（土） 第5回：2月26日（土） ※すべて10時30分～12時30分

会場：大和市文化創造拠点シリウス 6階生涯学習センター 601講習室

定員：40名（先着）

対象：18歳以上の大和市内在住・在勤・在学の方（高校生を除く）

※市外の方も定員に空きがある場合、ご参加いただけます。

参加費：各回1,000円、（全5回通しで申し込むと4,000円）

申込：12/19（日）10時から受付開始 お電話または6階生涯学習センター窓口へ

お申込・お問合せ 046-261-0491

第一回、『史記』とはどのような書物か？

また、項羽と劉邦および周辺の人物について

『史記』という書物の成り立ちや形式などの基本事項、また、今回の舞台となる秦から漢という時代について確認をし、さらに、劉邦を取り巻く人々についても紹介して「高祖本紀」を読む準備をします。

第二回、大丈夫まさに此の如くなるべし～生まれてから拳兵するまで

「高祖本紀」を読み進めてゆきます。はじめに、劉邦の生まれた時のことなどがどのように述べられているかを見てみます。また、同じ時期に項羽も天下を夢見ていました。この二人を比較してみることでその特徴を浮き彫りにします。

第三回、法三章のみ～函谷関を抜き鴻門の会を経て漢王になるまで

楚の懷王は、最初に関中を抜いた者を関中の王とすると約束しました。この競争に勝った劉邦は、関中の民に対して「法三章」を宣言します。このまま劉邦が天下を統一するかに見えたが、鴻門の会を経て結局は項羽が天下に覇を唱えることとなり、劉邦は辺境の漢中と巴蜀を与えられます。このとき、たくさんの人物が劉邦に従いました。その中に国士無双と称された韓信の姿もあったのです。

第四回、此れ吾の天下を取りし所以なり

～項羽を打ち破り皇帝となるまで

長く苦しい戦いの末、劉邦は項羽を打ち破り天下を統一しました。漢王朝建国という偉業を成し遂げた劉邦は、その後、家臣たちと国作りを始めます。この回では、劉邦を中心に進められる国作りとその方針についての議論について見てゆきます。

第五回、安んじか猛士を得て故郷を守らしめん

～諸王の反乱鎮圧と後継者

やっと国家体制を築き上げた劉邦を待ち構えていたのは各地域を治めている諸王の反乱でした。反乱者の中には韓信のようなかつてともに戦った仲間もいます。これを平定するために劉邦は再び馬上の人となります。すべての反乱を平らげたとき、劉邦は何を思ったのでしょうか。

司馬遷

講師プロフィール

1980年生まれ。國學院大學大学院文学研究科博士課程後期日本文学専攻（中国文学コース）単位取得退学。現在、國學院大學教育開発推進機構准教授。専門は中国古典文学。中国古典文学のジャンルの一つである辞賦について研究している。主な論文に「張衡「帰田賦」小考（『國學院大學中國學會報』第51輯）」、「詠鳥賦考—禰衡「鸚鵡賦」を中心に—」（『國學院大學大学院紀要—文学研究科—』第38号）、「曹植「洛神賦」小考」（『中国古典研究』第53号）、「張惠言の『七十家賦鈔』について」（『國學院雜誌』第117巻 第11号）などがある。

※ 天候や交通機関の運行状況及びその他不可抗力により、開催が中止となる場合がございます。

※ 駐車場の数に限りがありますので公共の交通機関でお越しください。

～大和市生涯学習センターからのお知らせ～
メールマガジンを発行しています。右のQRの申込フォームから是非ご登録ください。

